

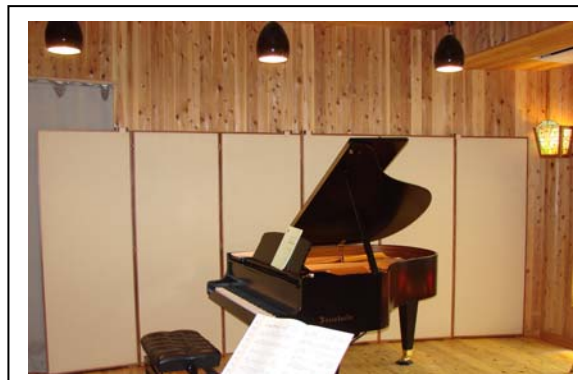
4.2 バッハの種、そして、メンデルスゾーンの花

武久源造&山川節子
バッハ：オルガン曲
メンデルスゾーン：交響曲第4番「イタリア」
連弾版
他

松本記念 音楽迎賓館にて
全席（約50席）自由 3500円
4月2日 19：00開演 20時半終演予定
開演まで夜桜をお楽しみいただけます。

武久源造 鍵盤楽器奏者

東京芸術大学大学院音楽研究科修了。チェンバロ、ピアノ、オルガンを中心に各種鍵盤楽器を駆使して中世から現代の幅広いジャンルで様々なレパートリーを持つ。特にブクステフーデ、バッハなどのドイツ鍵盤作品の解釈には内外から支持が寄せられている。また、作曲、編曲作品を発表し好評を得ている。楽器製作についても造詣が深く、楽器の構造的特色を最大限に引き出す演奏が、製作家からも高く評価されている。91年「国際チェンバロ製作家コンテスト」（米国・アトランタ）、また97年・第7回および01年・第11回「古楽コンクール」（山梨）、ほか多数のコンクールに審査員として招かれる。ソロ活動と共に、00年に器楽・声楽アンサンブル「コンヴェルスム・ムジクム」を結成、指揮・編曲活動にも力を注いでいる。02年から毎年、韓国からの招請により訪韓し、両国の音楽文化の交流に貢献。91年よりプロデュースも含めおよそ30作品のCDをALM RECORDSよりリリース。中でも「鍵盤音楽の領域」（Vol.1-6）、チェンバロによる「ゴールトベルク変奏曲」など多数の此w）・iが「レコード芸術」誌の特選盤となる。02年、著書「新しい人は新しい音楽をする」（アルク出版企画）を出版。05年より鍵盤楽器の新領域とも言えるシンフォニーのピアノ連弾版に取り組む。06年NHK第一ラジオ「ときめきカルチャー」コーナーに年間を通して出演。現在、フェリス女学院大学音楽学部及び同大学院講師。



山川節子 ピアノを主とする鍵盤楽器奏者。

ピアノを主とする鍵盤楽器奏者。10代から演奏活動をはじめ、故井口愛子氏、武田宏子氏ほかの各氏のもとで研鑽を積み、ソロ、連弾、アンサンブルなどで幅広い演奏活動を行う。企画・演出も手がけ好評を得ている。

長年にわたって武久源造氏に協力し、多様な音楽シーンの製=・演奏、CD製作などに関わる。同時に武久氏から多くの示唆を受け、チェンバロ、ラウテンヴェルク、パイプオルガンなども演奏し、武久氏との共演多数。

かん芸館「ピアノ連弾講座」講師。全日本ピアノ指導者協会会員として後進の指導にもあたっている。

2005年より「交響曲を連弾で」シリーズで武久氏と共演を続けている。

お申し込み 03-3709-5951 松本記念 音楽迎賓館 <http://ongakugeihinkan.jp/>
世田谷区岡本2丁目32番15号 二子玉川駅、成城学園駅よりバス&タクシー便となります。